

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/9/30作成(株) 新出光

【概況】＜金融引き締めによる景気後退～米国在庫減による需給逼迫懸念＞

●22日、ウクライナによる攻勢を阻止するため、ロシアのプーチン大統領は21日、部分的動員令を表明しました。これを受けてロシア産エネルギー供給混乱への警戒感が台頭しました。加えて、中国国有の製油所のうち少なくとも3カ所と民間の大規模な製油所が国内の石油需要の回復や第4四半期の輸出拡大を見込んで、10月の生産量を最大10%引き上げるとの観測が伝わり相場は83.49ドルへ反発しました。

●23日、歴史的な物価高騰を背景に、今週は米国のほか、英国やスイスなど主要国の中央銀行が相次ぎ大幅利上げを決定。世界的な金融引き締め加速によって景気が後退局面に陥り、エネルギー需要の伸びが鈍化すると警戒感が強まっています。S&Pグローバルがこの日発表したユーロ圏と英国の購買担当者景況指数(PMI)速報値(総合)は、そろって1年8カ月ぶりの低水準を記録し相場は78.74ドルへ大幅に反落しました。

●26日、米連邦準備制度理事会(FRB)が進める速いペースでの利上げについて、ボストン連銀のコリンズ総裁が「大幅な景気減速の可能性という不安はある」などと発言したことを受け、リスク資産を回避する流れが優勢となり相場は76.71ドルへ下落しました。

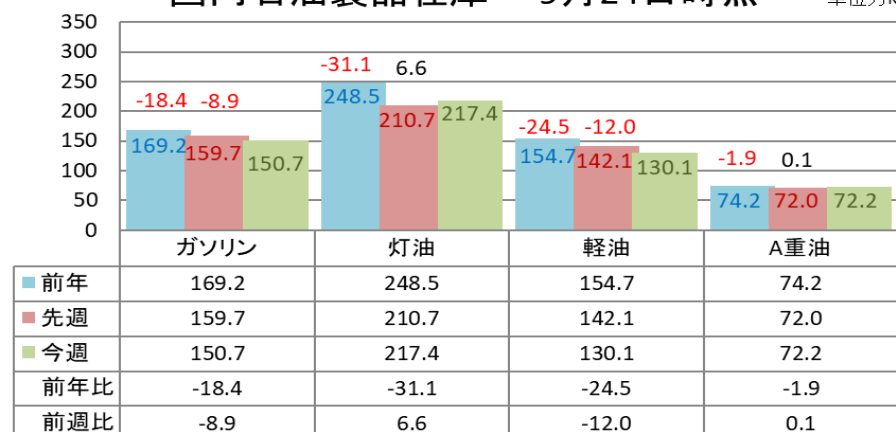
●27日、この日はドル高の勢いが一服したこともあり、安値拾いの買いが入りました。また、ハリケーン「イアン」が石油精製施設の集積するメキシコ湾岸に接近。イアンは2日以内に大型ハリケーンに発達するとみられており、供給混乱に警戒感が広がり相場は78.5ドルへ反発しました。

●28日、米エネルギー情報局(EIA)が午前発表した週報(23日までの1週間)によると、原油在庫は前週比20万バレル減と、小幅増加の市場予想(40万バレル増＝ロイター通信調査)に反する取り崩し。ガソリン在庫は240万バレル減(予想は70万バレル増)、ディスティレート(留出油)は290万バレル減(同10万バレル減)となり、週報の公表後、市場では足元の需給逼迫懸念が再燃し、原油買いが加速し相場は82.15ドルへ反発しました。

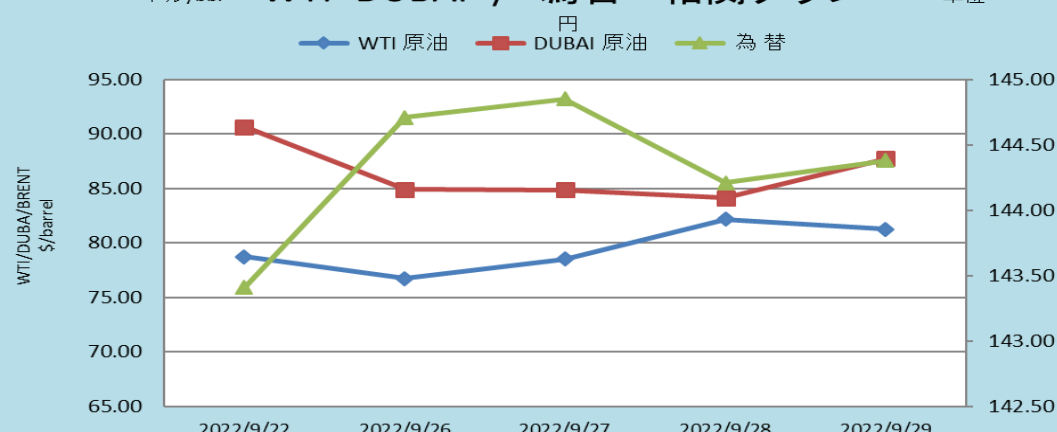
●29日、米欧などの積極的な金融引き締めが継続されるとの観測を補強する内容で、そうなれば景気が冷え込むとの警戒感は強い。中国でも大型連休を前に厳格な新型コロナウイルス対策が導入されており、エネルギー需要の鈍化懸念から相場は81.23ドルへ下落しました。

9月30日 16:00現在 WTI原油 81.55ドル 為替 1ドル 145.81円

国内石油製品在庫 9月24日時点



WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



	次回元売変動予測 10/6～	
ガソリン	→	-1.5
灯油	→	-1.5
軽油	→	-1.5
A重油	→	-1.5
LSA	→	-1.5

※原油コスト「-3.0円」
 ※激変緩和補助金「-34.2円」
 ※現時点での予測です。

【製品卸価格】＜第2週下げ見込みのため月初より月間平均玉や市況連動玉の販売攻勢強まる＞

＜今週＞今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストはサウジ調整金込みで、「-1.0円」、補助金は、「-35.7円」、都合「±0円」のスライド改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの26日時点の小売価格平均は169.5円となっております。四国の中堅元売玉や輸入玉の流通、台風通過による天候不順や月後半での原油安等の要因で販売枠を残している業者が多く月末にかけて赤字も辞さずの投げ売りの状況になりました。

＜10月1日以降＞次回の元売り改定は、原油コストは「-3.0円」の改定予測で、激変緩和補助金は「-34.2円」の見込みで、都合「-1.5円」の値下げ改定の予測となっています。原油動向については、金融引き締めによる景気減速の可能性があり原油は下落しています。しかし10月5日に開催予定のOPECプラス閣僚級会合に向けて減産に向けて事前協議を開始しており、日量100万bb前後の減産が提案される可能性が可能性があります。ガソリンについては、輸入玉が入着している為、市況価格も下落しタイト感は無くなりました。上記の通り2週目は値下げ見込みの為、月間平均玉や市況連動玉を持つ業者は、仕切りが改定される5日までに多くの枠を消化しようと販売を強化してくるものと思われます。製油所トッパー停止状況は、・ENEOS鹿島製油所 需給調整の為停止中。・コスモ石油四日市製油所9/23より補修工事の為停止中。10月初旬に再開予定。・出光昭和四日市製油所第2トッパー9/26より定修の為停止中。11月ごろ再開予定。・ENEOS水島製油所第2トッパー9/19より定期修理の為停止中。また、FCC装置の不調で稼働率は低い状態の為、白油については、需要がよくなればタイト気味になりますのでご注意願います。

【次世代エネルギー】＜関西電力、姫路火力で30年に水素混焼計画＞

関西電力は兵庫県姫路市にある火力発電所で2030年から天然ガスと水素を混ぜて二酸化炭素(CO2)の排出を抑えながら発電する検討を始めました。再生可能エネルギー由来の「グリーン水素」を海外から調達し、年間10万トンほどを混焼させ火力発電の脱炭素化を進めるとの事です。

今回、水素と混焼できる液化天然ガス(LNG)火力発電所の姫路第一発電所と姫路第二発電所を対象で、2施設の合計の出力は442万キロワットで、燃焼機などの設備を水素に対応したものに置き換え30年から水素と天然ガスを混ぜて発電を始め、将来は水素のみでの発電を目指します。

同社は南港発電所(大阪市)や堺港発電所(堺市)などにもLNG火力発電所を保有しており、他の発電所でも水素の混焼を拡大していくとの事です。

発電に使う水素を調達するため、30年までに発電所周辺の湾岸部に水素の受け入れ基地を建設します。水素はオーストラリアや中東など海外で製造するグリーン水素を輸入するとの事です。また、受け入れ基地周辺にはパイプラインを敷設し、発電所や周辺の工場などにも水素を供給できるように検討を進め、周辺の事業者と共同でインフラ整備を進める方針との事です。

関西電力は50年に二酸化炭素(CO2)の排出量を実質ゼロにする目標を掲げており、水素事業の拡大を急いでいます。水素製造では他社と共同で豪州でグリーン水素を製造する調査を進めているほか、原子力を活用した製造方法の研究も進めています。

【出典】 ① <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF262DJ0W2A820C2000000/>